



PSMA治療実践の報告とセラノスティクスのあるべき姿を考える

車 英俊 先生

一般社団法人セラノスティクス横浜 理事

一般社団法人セラノスティクス横浜を立ち上げ、泌尿器科クリニックを開業している車と申します。

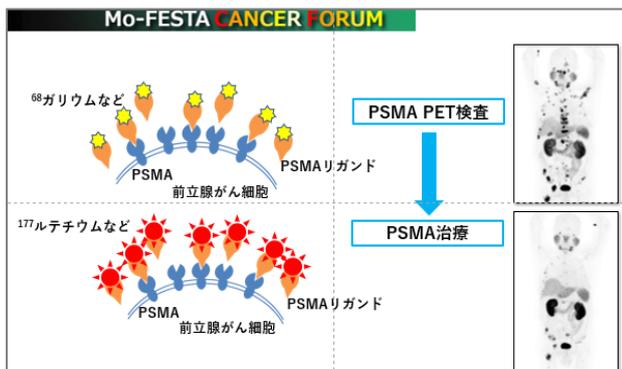
■ PSMA治療との関りを振り返る

私達は2018年から日本の患者さんをオーストラリアの医療機関に紹介しています。

2018年に米国がん治療学会で、PSMA治療の衝撃的な治療成績が発表され、私達も初めて国内で我々の治療について発表しました。2019年にセラノスティクス横浜を設立、その秋にこの場でも話しをさせていただきました。アメリカでは2020年にPSMA-PETが承認され、2022年にはルテチウムPSMA治療が承認されました。2023年、慈恵医大と共同研究を始め、2024年には「ストップ！前立腺がん、PSMAが変える日本のがん医療」という本を出版しました。この年までに100例を超える患者さんを、海外で治療してきました。そして2025年の9月、日本でもPSMAリガンド療法が承認されるに至ったわけです。

PSMA-PET検査とPSMA治療は、本来切り離して考えるべきだと思っていますが、日本ではセットでの承認となりました。

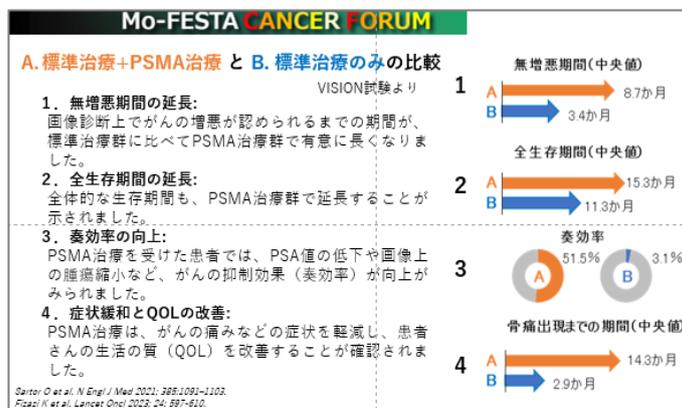
■ PSMAリガンド療法とは



前立腺がん細胞の被膜にあるタンパク質「PSMA」を標的とするリガンドに、くっつける核種を変えるだ

けで、診断と治療を一連の流れで行うことが可能となり、これをセラノスティクスと称しています。

標準治療のみの患者さんと、PSMA治療を加えた患者さんを比較した「VISION試験」が行われ、無増悪期間が約5か月、生存期間は約4か月延び、骨痛の出現までも約1年延びるという報告がありました。



この結果に基づき、まずは海外で、続いて日本でもPSMA治療が承認されたわけです。

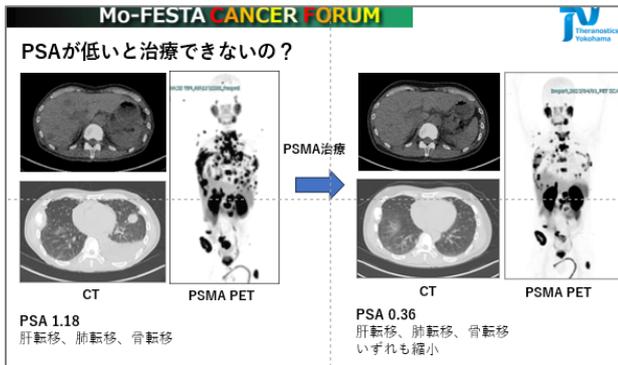
■ PSMA治療はどんな患者さんに有効か

期待の大きいPSMA治療ですが、どの患者さんにも効くわけではありません。UCLA（米国）によると、良く効く人の要件は次の6点になります。

- ① 診断からの期間が長い、② 化学療法歴がない、③ 貧血がない、④ 転移数が多くない、⑤ PSMA PETの集積が強い、⑥ 肝臓転移がない

UCLAは、治療効果の予測ノモグラムをオンラインで公表しており、これを開くと、誰でも使えるリスク・カリキュレーターというツールが表示され、ご自身の項目を入力すると、この治療の効果を予測できます。私達の患者さんの事例をあてはめて試してみると、実際にオーストラリアで治療を受けた結果と、ほぼ同じような効果が得られたことが確認できました。ただ、この指標にはPSA値が含まれておりません。

ならば、PSAが低くて、病状が進行しているような患者さんにも効果があるのだろうか。

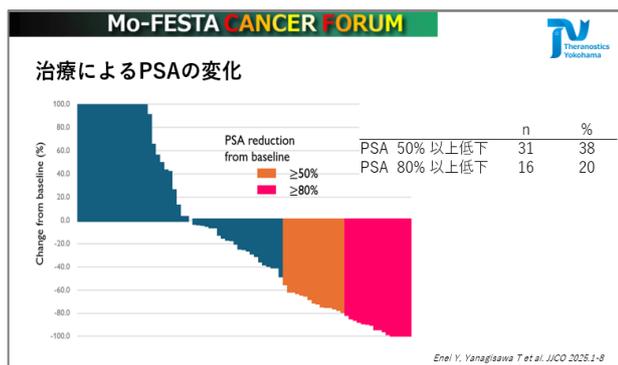


PSA1.18で、転移があると思われる患者さんに、PSMA-PETを撮ってみるとほぼ全身に明確に転移を確認できました。検討の結果、オーストラリアで治療を受けていただくと、肝臓や肺の転移が縮小し、貯まっていた胸水もみごとに消失しました。治療を担当していただいたレンゾ先生によると、PSMA-PETで、転移部がハッキリ映る場合（約30%）は治療効果は高いが、薄くしか映らない場合（約30%）にはあまり効果がないとのこと。

PSMA治療が効く要件については、慈恵医大の柳澤先生に、論文をまとめていただいております。

【検索】 Yanagisawa PSMA

■ 日本人の治療成績



日本からは、かなり進行した段階で渡航される患者さんが多いのですが、PSA値の変化については、海外とほぼ同じ程度ですが、驚くべきはその安全性です。海外（VISION試験）で38%が経験する重度のドライマウスは、日本人では1.2%しかおらず、日本人にとってPSMA治療は、安全で副作用が少ない治療と言えます。

日本人の治療成績については、私たちがやってきた7年の成果を踏まえ、慈恵医大の江井先生に、論文をまとめていただいております。【検索】 Enei PSMA

■ 海外で受けるPSMA治療

患者さんから問い合わせがあった場合、まず国内でPSMA-PET（保険適用外）を受けていただき、次に、オーストラリアの先生と情報を共有しながら、打ち合わせを行います。その後、オーストラリアの先生との面談によってスケジュールを決め、渡航してPSMA治療を受けます。

治療は、8週おきに2~4回治療を繰り返しますが、2回ごとにPSMA-PET検査を行い、継続するか否かを話し合います。

ルテチウム以外にもアクチニウムやテルビウムなどの核種を用いた治療法があり、個々の患者さんの病状や状況に応じて、ルテチウム以外の核種を用いた薬剤を使ったり、それらを併用したり、途中で薬剤を切り替えたりして、PSMA治療の作戦を考えます。

そのメンバーには、私の他、レンゾ博士（オーストラリア）、三木先生（慈恵医大）、岡田先生（PSMA-PET検査：MIクリニック）、治療のサポートは岡崎先生、それぞれの得意分野で連携しながら、世界の最新治療を提供しています。長距離の渡航と自費診療が問題点ですが、意思疎通の不安については、通訳にご協力をいただいております。

■ PSMA治療を受ける意義

臨床試験では寿命が4ヵ月延びると言われています。もちろんこれも大切ですが、私達は、それ以上に、生活の質を上げることが評価したいと考えています。VISION試験の代表者、オリバー・サルトル先生も「PSMA治療は最もQOLをよく保てる治療だ」と言われています。大切なのは人生の長さではなく、人生の中にどれだけ本物の「生」があるかです。私達はこれまでの経験を踏まえ、PSMA治療の本質は、生活の質を保ち、本物の「生」を大切にする治療法であると実感しているところです。

（要約：土屋陽一）